

講義名	19-基礎技能A(数的処理 )/15-基礎技能B(数的処理)		
担当教員	川合 宏之		
開講期・曜日・時限	後期 水曜日 3時限	授業形態	講義
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

<b>主題と概要</b> ビジネス社会では複雑な計算や大量のデータ処理にコンピュータを用い、多数のデータの中から役立つ情報を適切に取り、計算処理や論理的思考により分析し、様々な意思決定を行う。そのための数的処理能力は不可欠である。 出題範囲は、民間企業において入社試験の1つとして、多くの企業で活用されている「SPI 試験」の対策の立て方を学ぶ。文系の学生が苦手意識を持ちやすい非言語分野を中心に頻出問題・必出問題についての基本的な解決パターンを学ぶ。自分の志望企業で社会人としてのスタートを切るためにも、民間企業就職を希望する学生の座標を定める。
--

<b>到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な計算処理及び論理的思考を理解し、数的問題の解を得ることができる。</li> <li>出題範囲を知り、基本的な解決パターンを身につけることができる。</li> <li>得意分野と苦手分野を把握し、苦手意識を払しょくすることができる。</li> </ul>
--

<b>提出課題</b> 毎回、演習課題を与えるので、能動的に演習し数的問題の解を求めること。また、授業中に完成できなかった演習課題は、次回までに完成させておくこと。そして、次項に示す「準備学修(予習・復習等)」の具体的な内容及びそれに必要な時間」に示した主体的学習を期待する。
---

<b>課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック</b> 授業内で実施した演習課題等の解答・解説を行う。これにより自己採点と復習を可能とする。
--

<b>評価の基準</b> プリントの課題(60%)、毎時の授業への参加度・積極性(40%)により総合的に評価する。
--

<b>履修にあたっての注意・助言他</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社ワークアカデミーのテキストを使用する。</li> <li>試験期間に試験は行わず、成績は授業期間内で全て評価される。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスが修正される可能性がある。</li> </ul>
---

<b>教科書</b>			
・数的処理テキスト	株式会社ワークアカデミー	株式会社ワークアカデミー	

<b>プリント資料及び参考文献</b> 必要に応じて授業の中で紹介する。
---

<b>授業計画</b> 第1回 数的処理の概要及び数学基礎(受講ルール、方程式等の数学基礎、就職試験との関わり等) 第2回 方程式(文字数の計算、方程式、数列等) 第3回 割合(元の量、比べる量、割合、比率等) 第4回 損益算(原価、売値、利益、損益、利益率、割引率等) 第5回 仕事算(仕事の量と仕事の分り、仕事時間の計算等) 第6回 濃度算その1(全体量と当該物の量、濃度表、簡単な濃度計算等) 第7回 濃度算その2(各種濃度計算等) 第8回 速度算その1(時間・距離・速度、速度変化、時刻表等) 第9回 速度算その2(旅人算、追いつけ算、流水算、通過算等) 第10回 順列・組み合わせ(順列、円順列、組み合わせ等) 第11回 確率(確率、コイン問題、サイコロ問題、くじ引き問題等) 第12回 論理(命題、対偶、三段論法等) 第13回 集合(集合、条件、グループ分け、キャロル表、線分図等) 第14回 資料の読み取り(表・グラフの読み取り、各種グラフの選択等) 第15回 学期のまとめ(既習事項の要点整理) ・ 受講者数や状況に応じて講義内容やスケジュールは変更される可能性がある。
---

<b>授業形態(アクティブ・ラーニング)</b>			
ア:PBL(課題解決型学習)		イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	
ウ:ディスカッション、ディベート		エ:グループワーク	
オ:プレゼンテーション		カ:実習、フィールドワーク	
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)			

<b>準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>講義前に教科書の該当部分を読んでおくこと。(約1.0時間)</li> <li>講義後は内容を復習し、確認演習に取り組み、理解度を確認しておくこと。(約3.0時間)</li> </ul>
---

<b>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連</b> 本科目は、「気づきの教育」の一環として、自ら気づくことに資する科目である。本科目は、ビジネス社会で必要とされる、多数のデータの中から役立つ情報を適切に取り、計算処理や論理的思考により分析し、様々な意思決定を行う数的処理能力を身につけることができる。それによって、本学の教育の目標である「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」の育成を達成する。さらに、学生が苦手意識を持ちやすい就職試験(SPI非言語分野)の問題について、得意分野と苦手分野を把握し、苦手意識を払しょくし、就職力を高めることにつながる。
--

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>
-------------------------------

<b>実務経験の有無及び活用</b>
--------------------

<b>備考</b> 上記の授業担当者：株式会社ワークアカデミー専任講師
--